

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	山 梨 県
-------	-------

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	八代町境川村中学校組合立浅川中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	28
生徒数	131	144	130	1	406	

II 研究の概要

1. 研究主題

「基礎・基本の定着を図るための指導体制や指導方法および指導内容の工夫」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

* 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。

- ・ 1学年の音楽…生徒の感性が柔軟な時期の学年、および感性を直接高められる教科であるため。（担当者が「学力向上山梨プラン」の検討委員になっている）
- ・ 2学年の数学…生徒の理解の状況に差が出やすい学年、および教科であるため。
- ・ 3学年の英語…生徒の理解の状況に差が出ている教科、および学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	・未指定
--------	------

平成15年度	<p>○ テーマ・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「少人数化を図った指導体制や指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る」 ・ 「個に応じた支援や指導のあり方を工夫し、基礎・基本の定着を図る」 ・ 「効果的な評価と支援の方法を工夫、基礎・基本の定着を図る」 <p>○ 研究の見通し・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業において、生徒の実態や教材の特徴に応じて、授業形態を工夫するならば、学習内容に対する生徒の理解が深まり、基礎・基本の定着が確実なものとなるであろう。 <p>○ 研究の内容・方法・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年の音楽においては、学習内容に応じ少人数グループで教え合い、聞き合いながら、音楽における基礎・基本の定着を図る。 ・ 2学年の数学においては、ひとつの単元のなかで、多くのデータや多くの意見が必要とされる時間は二人の教員（TT）で一斉指導を行い、きめ細かな指導が必要となるの、各自の考えを深めたり学習内容の定着を図る時間は、一クラスを二クラスに分け、少人数化して学習に取り組ませる。 ・ 3学年の英語においては、生徒の希望により「基礎クラス」と「発展クラス」に分け、少人数化し、生徒の理解に応じてそれぞれの担当教師がそれぞれの内容を指導し、基礎・基本の定着を図る。 ・ 冬季休業中に、「ふりかえり学習」と名付けた学習会を全校体制の中で各学年ごとに三日間行う。
--------	---

平成 16 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・「少人数化を図った指導体制や指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る」 ・「個に応じた支援や指導のあり方を工夫し、基礎・基本の定着を図る」 ・「効果的な評価と支援の方法を工夫、基礎・基本の定着を図る」 ○ 研究の見通し・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・授業において、生徒の実態や教材の特徴に応じて、授業形態を工夫するならば、学習内容に対する生徒の理解が深まり、基礎・基本の定着が確実なものとなるであろう。 ○ 研究の内容・方法・・・ <ul style="list-style-type: none"> ・数学と英語において、選択授業の体制を工夫し、少人数指導体制を用い生徒に学習内容がわかるという手ごたえを感じさせながら、基礎・基本の定着を図っていこうと考えている。 ・音楽においては、今年度同様に、学習内容に応じて少人数グループを用い、基礎・基本の定着を図っていこうと考えている。
----------------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ○平成15年度は、必修時間のなかで必要に応じて少人数化を図り、指導に当たってきたが、平成16年度は、選択教科の時間を工夫し少人数体制を作り出し、数学と英語の学習指導に重点的に取り組む。 ○音楽については、必修時間のなかでグループ学習に取り組みせ、少人数グループを用いた学習指導に取り組む。

III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導体制のなかで「勉強している内容がよくわかるようになった。」「質問しやすくなった。」という生徒の声が多く返ってきた。授業に取り組む時の生徒の学習意欲は、学習内容がわかると高まり、同時に内容の定着度が増すようになる。少人数指導体制は、学習内容が「わかる」状態を作り出し、学習内容の定着度も引き上げるのに有効である。

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ○少人数クラスを現在の職員構成のなかでどう作りだすかが大きな課題である。来年度は、各学年の選択授業の体制を工夫して少人数指導体制を作り出そうと考えている。 ○少人数クラスが作れるよう国、社、数、理、英の各教科で、加配が一人ずつぜひともほしい。
--

IV 学力把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査から定期考査までが約3ヶ月あるので（定期考査は年間4回の前期・後期制の日程で設定した）その間、各教科ごとに単元テストや毎日の授業の記録を残したりしながら生徒の学習活動をこまめに評価し、次への指導に生かしている。
--

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○先進校の視察に、数回に分かれて、約三分の一の職員が積極的に出かけた。
 ○10月16日(木)に数学科と英語科の取り組み内容を近隣の小中学校の先生方に見ていただく、中間発表会ということで授業公開を行った。11月4日(月)には音楽科が行った。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無